

17 聴覚・視覚・仲間による情報伝達

取組分類	参加体験	行動特性	デジタル
			<input checked="" type="checkbox"/> 呼びかけ
自治体	愛知県田原市		

問合せ先：愛知県田原市 防災対策課

取組概要

- **市外からサーフィンに訪れるレジャー客等**に向け、**津波情報を確実に伝達**できるよう取組を推進。
- 防災行政無線を利用した『**聴覚**』による伝達、津波フラッグの掲示による『**視覚**』による伝達、津波からの避難の必要性を認識した『**仲間**』による伝達などを行っている。

取組のきっかけ

- 田原市はサーフタウン構想戦略により、サーフィンを切り口とした交流人口の拡大による地域活性化を図っており、年間を通して市外・県外から多くのサーファーが訪れている。
- 市の地理に詳しくないサーファー達にも津波情報を確実に伝達し、津波災害からの確かつ迅速に避難できるよう、取組を開始した。

取組のポイント

- サーフィン関連団体を含む10機関の協働により、災害時にレジャー客等が避難行動をとれるよう、「聴覚・視覚・仲間による伝達」を意識した避難誘導訓練を繰り返し行っている。
- ★『**聴覚**』による伝達
防災行政無線による放送、サイレン吹鳴、赤色回転灯の点灯によって、津波警報などの津波情報を伝達。避難する際は**周りの人へも呼びかけながら避難をする**よう広報。
- ★『**視覚**』による伝達
「**津波フラッグ**」の掲示や、津波からの避難について意識すべき最低限の高さを「**津波セーフティーライン**」として道路上などに示す取組を実施。
- ★『**仲間**』による伝達
ハンドマイク、メガホン、津波フラッグ（手持ち）、訓練に参加した**サーファー同士の主体的な相互の声かけ**により、海上や浜辺にいる海浜レジャー客等に対し、津波からの避難を呼びかけ。

▼津波フラッグ



▼津波セーフティーライン



▼訓練の様子



取組の効果

- 令和4年1月16日に発生したトンガ諸島の噴火に際しては、県内に津波注意報が発表されたが、訓練同様の対応をとることで、的確に避難誘導を行うことができた。